



ゆめ半島
千葉国体
2010

国体の記憶 ④

皆でつかんだ夢舞台

このコーナーに登場してくれる人を募集します。
くわしくは広報課（☎20-15503）へ。



根本 秀樹さん(公津の杜)

東大阪市生まれ。富里市役所野球部所属。平成19年、キャプテンとしてチームを創部後初となる国体出場に導く。平成12年東日本軟式野球大会一部優勝、平成16年全国官公庁野球連盟中央大会準優勝。富里市職員



富里市役所野球部ナインは夢舞台に立っていた。平成19年秋田わか杉国体・軟式野球1回戦。球場には地元から駆け付けた応援団の大歓声が飛び交っていた。

「目標にたどり着くことができたのは、支えてくれた職場の同僚や家族、そして忘れることのできない苦い敗戦のおかげだと思っています」

話は平成17年の関東大会にさかのぼる。当時から県内屈指の実力を持つ富里市役所野球部だったが、関東大会では他県代表の高い壁に阻まれ、国体出場を果せずにいた。

相手チームや試合運びによっては意外ともろい一面を見せるチーム。そんな現状を「お前が変えろ」と指名され、キャプテンとして初めて、チームとしては3度目となる、国体出場をかけた挑戦だった。

「何度もピンチを切り抜け、あとアウト1つのところまでいったんです。それがまさかの逆転負け。あまりの結末にぼうぜんとなりました」

この敗戦は、以前にも増して強烈に「勝利」そして「国体」というものをチー



声援を背に打席に入る根本選手（平成19年）

ムに意識させた。限られた練習時間の使い方を工夫し、一人一人が常に高いレベルとモチベーションを維持できるように腐心した。

そして迎えた平成19年の関東大会2回戦。延長11回裏、自らのバットでたたき出した決勝点を守り切ると、歓喜の渦が沸き起こった。悲願達成に、チームメイトとともに涙した。

「その瞬間、みんなが一斉にマウンドへと集まりました。まるで全国大会で優勝したかのような騒ぎ。これまでやってきたことが報われたんだと」

長野県勢との対戦となった国体初戦。息詰まる投手戦を演じるも中盤に奪われた1点を返せず惜敗した。だが、「国体出場」はすでにゴールではなくなった。

「いろいろな意味で全国というものを肌で感ずることができました。去年は県勢が優勝しています。次はわたしたちが国体で1勝、いや全国制覇したいですね」

編集後記

冬は空気が乾燥し風邪をひきやすく、十分な体調管理をしていてもうつることがあります。インフルエンザとなると高熱を伴い、かなりつらい。ダチョウの卵から、鳥インフルエンザ抗体を大量精製する方法を確立したとか。かかったら病院に行かなくてはなりません、うがいなどで予防し、医療費を抑えないと…。



成田市役所本庁舎
(行政棟、議会棟、消防本部、成田消防署)
はISO14001の認証登録を受けています。

平成21年1月15日号 No.1139

成田市のホームページ <http://www.city.narita.chiba.jp>